



府六だより

府中市立府中第六小学校

10月号

令和6年9月30日

(児童数 716名)

校長 小林 邦子



プラスの気付きを重ねて

校長 小林 邦子

ようやく過ごしやすい季節になり、秋の訪れを感じます。8・9月の詩の暗唱は、「コスモスのうた」(まどみちお)と、「山のとっぺん」(岸田 衿子)でしたが、美しく風に揺れるコスモスを目にすることが多くなりました。

さて、9月を振り返り、14日(土)の「道徳授業地区公開講座」で講師の中楯 浩太先生が3校時に行ってくださった特別授業「ふるさとのよさを受け継ぎ、生かすために」(6年生児童、保護者、地域の方対象)と5年生のわくわく自然教室についてご紹介します。

「当たり前を意識しないと、あることも価値も感じられない。意識して初めて見えてくるものがあり、価値を感じられるようになる。」中楯先生はそうお話しになり、自分の当たり前、府中第六小学校の当たり前、府中のまちの当たり前について、みんなで考えていきました。

「府中のまちの当たり前」～公共施設や広場がいっぱい、祭りがいっぱい、お店がいっぱい、駅がいっぱい、自然がいっぱい、歴史がある、スポーツのまち・・・ まだまだありますが、自分たちが考えた府中のよさについて、どれだけの人がどのような思いでかかわってきて今に至るのか想像しながら、グループで話し合いを深めました。

最後の問いは、「当たり前の中から三つ差し出せば何でも願いがかなうとしたら、どれを差し出しますか」というものです。当たり前を手放すことでかなえたいものを、私は思いつきませんでした。特別授業で伝えてくださった「小さなこと、当たり前のことに意識を向け、価値を見出すこと」「日常から幸せを受け取る感謝神経を磨くこと」「今生きていること、当たり前のことを大切にすること」を学校で心がけ、ふるさとのよさをどのように生かしていくか、今後も子供たちと考えていきたいと思います。

24日(火)から27日(金)のわくわく自然教室では、5年生の子供たちがグループ行動や民泊体験などを通して、自主的に考え、行動する力を高める姿が見られました。

「すべての活動が楽しみ」「友達と仲を深められるのが楽しみ」とバスの中で話していましたが、民宿の1日目は教員と離れ、不安な気持ちもあったと思います。民宿のおとうさん、おかあさんは、健康面で気になることがあればすぐに連絡をしてくださり、子供たちの様子を見守りながら、飯山でこそできる体験をたくさんさせてくださいました。

すべての活動は見られませんでしたでしたが、ものづくりをしながら、「家の人へのお土産にしよう」と話す子供たちのご家族への思い、多くの人が活動を支えてくださっていることへの感謝、役割をしっかりと果たそうとする責任感やたくましさなど、成長を感じた4日間でした。

10月は、6年生の日光移動教室、連合陸上記録会、5年生の美術鑑賞教室、低学年の遠足など行事が続きます。「どこへでもでかけてみると 思いがけないことがある」～「山のとっぺん」の詩の言葉のように、プラスの気付きを重ねてほしいと思います。

☆学校HPの学校日記で、子供たちの学校生活を日々掲載しています。緑色を背景にした学校日記のタイトルをクリックすると9月の記事が見られますので、ぜひご覧ください。

